

令和3年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
(1) 希望進路を実現できる学力の充実・向上 (2) 規範意識や人権尊重の理念の更なる徹底と生徒の人間力の伸長の実現 (3) 保護者・地域住民の信頼を高める学校づくりの推進		(1) 「総合的な探究の時間」では生徒の主体性やSDGsの視点で提言できる力を育てる実践を行い、一定の成果が見られた。また、授業改善のために、公開授業や授業アンケートを実施した。今後は、主体的、対話的で深い学びをさらに充実させるために、教員の教科等の指導力を高め、実践して行くことが大切である。 (2) 3年生については、組織的な指導体制の整備を図ることで希望進路に応じた丁寧な指導を進めることができた。これまでと同様に、進路指導に必要な情報、指導方法を共有し、1年次では学力の定着と文理選択を図り、2年次では具体的な希望進路を確立させることを大切にしていく。 (3) 部活動では、地道に努力する生徒と献身的な教職員の支援により、コロナ禍において必要な注意を払いながら活動が行われた。中止となった大会等もあったが、全国大会や近畿大会に出場した生徒もいた。今後も、学業と部活動の両立のための支援を継続していく。また、社会性等を身につけるために学校行事などの特別活動においても積極的な活動を行うとともに、成人年齢の引き下げに伴い、さらなる主権者教育の充実が望まれる。 (4) 新型コロナウイルス感染症対策として様々な指導を行った結果、規模等の多少の変更はあったが、多くの教育活動を中止にすることなく実施できた。挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、人権意識の向上、学校生活になじめない生徒への手立てやいじめ・体罰の防止には今後も重点的に取り組む必要がある。 (5) 地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めている。ホームページ、西高だより、西高理探だより、新聞広報を通して、中学生や地域の方に本校の教育活動の成果がよくわかるよう情報発信を行った。さらに「地域に開かれた学校づくり」を充実していく必要がある。		○普通科と理数探究科それぞれの特色を活かした主体的、対話的で深い学び・探究活動とともに、ICT機器を活用した授業改善も進め、質の高い学力と希望進路の実現につなげる。 ○生徒の自己有用感・自尊心を育む場を増やすとともに、挨拶を大切につながり切磋琢磨する文武両道の校風を学校全体で共有し、生徒一人一人の自己ベスト更新を支える。 ○多様性と調和を大切にする人権尊重の態度を育むとともに、交通安全や情報リテラシーを高めて命と安全を守る教育を推進する。 ○学校運営協議会発足を契機に地域連携を一層進め、「社会に開かれた教育課程」の具現化を図るとともに、保護者の信頼や中学生の学校理解・志願を高める広報活動を推進する。 ○働き方改革を進めて教職員の心身の健康を促進することと併せて、教職員の同僚性を高め教育の質を向上させるためのOJTを推進する。	
評価領域	項目（重点目標）	具体的方策		評価	成果と課題
組織・運営	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	全教職員が互いに教え合いながら切磋琢磨し、日常的に自己の教科指導力、生徒指導力、業務遂行力を向上させるなど、自立的な人材育成を図るための職場環境作りと研修の場を充実させる。 分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、新たな提言や知恵を結集させて学校運営・教育活動の一層の活性化を図る。			
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	生徒には、一段高い目標を持たせ、自己の変容を実感できるよう指導を行う。そのために、主体的・対話的で深い学びや、探究活動を推進し、学力の向上・進路希望の実現・特別活動の充実を図ることで、生徒の生活の自立と学習の自立を促す。 スマートスクール推進事業により配置されるICT機器を活用した授業をデザインする。			
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る	学校説明会の内容の充実と小・中学校等地域との連携の強化を進める。中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを行う。 本校の教育内容・実践等に関して、ホームページ、西高だより、新聞を使って情報発信し、「地域に開かれた学校づくり」を推進する。			
	学校の取り巻く危機に対して万全の対策を図る	学校の安全を様々な危機から守るための校内体制を作るとともに、京都府教育委員会や関係機関と密な連携を図る。保護者への連絡をスピーディに行う。			
教務部	校務運営	教科指導力・ICT機器活用力向上への取組	研究授業を全教員体制で実施し、実態の把握に努め、ICT機器の効果的な活用方法について研究を深める。		
		基礎学力充実に向けた取組	各教科での取組を支援し、学習環境の調整・整備につとめる。		
		勉学と部活動の両立に向けたシステム作り	行事の精選や各取組の整理をし、両立を妨げないような環境を整える。		
		育成すべき資質・能力を踏まえた評価基準の作成	新学習指導要領実施に向け、育成すべき資質・能力の共通理解をはかり、各教科での評価基準作りを進める。		

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導部	規範意識	挨拶の励行、規範意識の向上	挨拶を大切に生徒会役員を中心に挨拶運動を広げ、生徒が心地よく生活できる環境をつくる。		
			規範意識を高め、生徒同士がルール・マナーを守ることによって快適に学校生活を送れるよう指導する。		
	安全・安心	安全・安心な学校の体制づくり	自己管理・危機管理の徹底、自己指導力の育成により、事故・トラブル等を防ぐことができるよう指導する。		
			スマートフォンの取扱やSNSの利用について意識を高める教育をする。		
	いじめ防止	いじめの防止と早期の対応	すべての教育活動を通して、人権意識を高めいじめを許さない姿勢を示し未然に防ぐ。事象が生じた場合は、迅速に対応し早期に解決を図る。 いじめや問題行動の早期対応を図り、関係者と連携を密にし解決につなげる。		
特別活動	主体的な生徒会活動	生徒会本部役員・局員、クラス役員など主体的な生徒会活動を通して、各種行事等の特別活動が効果的に実施できるよう支援する。			
	積極的なボランティア活動への参加	多くの生徒がボランティア活動に積極的に参加できる機会と環境を整える。			
進路指導部	希望進路の実現	教育相談（ケアリング）の強化	各学年部や分掌との連携を密にし、生徒の「自己ベスト」更新を支援する進路検討会を実施する。個に応じた指導の手立てを図り、丁寧なケアリングに努め、教育相談的機能を高める。		
		生徒の学力の一層の向上	各種模擬試験を有効に活用し、模試分析や進学課外等を通して、生徒の「質の高い学力」の構築を促すとともに、生徒一人ひとりの「自己ベスト」の更新を図る。		
		各種進路ガイダンスの充実	「社会に関わられた教育課程」の観点から、学校内外の人的資源を有効に活用し、各種ガイダンスを強化することを通じて、生徒を内発的に動機づけ、自尊感情や自己肯定感を向上させる。		
		「社会人としての自覚」の醸成	就職希望者への丁寧な職業紹介を行うとともに、労働法規に係る学習、社会人マナー実習などの「内定後指導」を実施し、社会人としての自覚を一層高める。		
	研修の充実	次年度を見据えた研修の充実	大学入学共通テスト実施、新学習指導要領の次年度実施等をふまえ、各種研修のあり方について検討し、生徒に速やかに還元できる体制の樹立を図る。		
	信頼される学校づくり	各種情報の適切な発信	ICT機器などの有効活用や本校ホームページの記事掲載を通じて、生徒、保護者、地域への情報発信機能を強化する。これらを通じ、生徒や保護者から「信頼される学校」「中学生に選ばれる学校」づくりを図る。		
保健部	心身の健康管理	配慮を要する生徒や心の健康問題の早期発見及び対応できるような支援体制作り	学年部や教科担当者と連携し、気になる生徒について共通理解を図る。また、適切な支援を組織的に行う。 スクールカウンセラーや専門機関との連携を図り、支援の方向性によって共通理解のもと行う。		
		感染症・熱中症対策	教職員や生徒への啓発・広報を通じて、予防に努め、適切な対応をする。 健康観察を行い、自己管理する力を培う。		
		教職員研修等	薬物乱用防止、メンタルヘルス、特別支援に関する研修を実施する。		
	安心・安全な学校生活	清掃活動の充実	校内美化に対する意識を高め、快適な学習環境作りに務める。		

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
特色推進部	開かれた学校を創造する	広報活動の充実	理数探究科及び普通科の教育システム等の情報、あるいは本校の特徴的な取組等を、高校説明会や学校公開等の機会を通じて中学生・保護者・中学教員向けに効果的に提供する。 学校生活における生徒の活躍を、ホームページや広報紙等で迅速かつ生き活きと伝える。また、地域の新聞社など情報機関と連携した広報も行っていく。		
	スマートに学べる学校を創造する	校内ネットワークの整備	ネット commons、DC1、Teamsなど校内ネットワークの整備、利用推進等を通して学校情報のデジタル化を図り、より早く、正確な情報伝達ができるよう務める。		
		ICT化の促進	スマートスクール担当との協力により、授業のICT化を促進し、知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力を身に付ける授業が行えるよう支援する。		
	広く深く学べる学校を創造する	図書館活動の充実	図書委員会活動等を通じて生徒に図書館の利用を促し、読書活動や調べ学習を支援する。また、芸術鑑賞会など、生徒の心を豊かにする活動を展開する。		
「総合的な探究の時間」の企画・立案		学年部と協力して普通科の「総合的な探究の時間」の企画・立案を行い、多様な学習方法によって「主体的・対話的で深い学び」を実現する。			
理数探究科	先進的な理数教育	科学体験行事の充実	3年間の科学体験行事の実施方法や発表方法を見直し、体系的な科学体験行事となるようにする。		
		課題研究の充実	テーマ設定の段階から丁寧な指導を行い、スムーズな研究活動ができるよう指導する。研究内容は、生徒の興味関心を高めるために、また研究をより意義深いものにするために地域資源を活用することを心掛ける。実験やデータの取り方などを適宜見直し、より質の高い課題研究を目指す。また、評価方法を研究し、指導者間の連携と生徒の活動状況を共有する方法を研究する。 また、スーパーサイエンスネットワーク(SSN)京都事業のサイエンスフェスタでの発表も視野に入れた取り組みにする。		
		課題研究指導力の向上	大学講師を招いて、教員の意識も高める。海洋教育パイオニアスクールプログラムを活用して、課題設定段階からの生徒への指導力の向上を目指す。		
		発表を通じた言語活動の充実	校内・校外の発表会を数多く経験させることにより、口頭発表・ポスター発表・記録集の作成など様々な形態で体験・研究活動を効果的に他人に伝える機会を数多く設ける。		
		科学技術コンテスト参加の奨励	各種科学コンテストの情報を効果的に発信し、自主的に科学を学ぶ生徒を育成する。		
	希望進路の実現	高大連携の推進	京都工芸繊維大学や、京都大学フィールド科学教育推進センターとの協力体制を深め、新しい高大連携の在り方を検討する。		
		受験指導力の向上	分掌間・教科間連携により、学校全体で取り組む授業力・教科指導力の向上に様々な形で貢献する。		
人権教育	人権学習	さまざまな人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う	学年部や各分掌と連携し系統的・計画的に入権学習を推進する。		
			時代のニーズに応じた学習教材・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。 人権課題の解決の主体としての行動力・実践力を育てる学習を展開する。		
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。 中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。 全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権意識の高揚を図る。		
研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身につける。 人権教育全体計画に従って、各教科の授業や取組において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。			

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
第1学年部	学習指導	基礎学力の充実	授業を中心に基礎的な学力を身につけ、思考力・判断力・表現力を養う。 システム手帳を有効活用させ、家庭学習の習慣を確立させる。		
		進路実現に向けての取組	面談や体験学習などを通して、生徒本人の自己理解を深め、自らの進路実現に向けて意欲的に行動させる。		
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	教室美化を徹底させ、よりよい学習環境を作る。5分前集合や、提出物の期限を守らせる。教師から積極的に声かけをして、挨拶を励行させる。 校則や交通ルールなどの生活規範を尊重する態度を育成する。		
		特別活動等への意欲的な参加促進とその活動を通じた社会性や人間力の向上	学校行事・生徒会活動やHR活動へ積極的・計画的な参加を促すとともに、部活動と学習を両立しようとする姿勢を育成する。		
インクルーシブ教育	車いす生徒の受け入れ体制の確立	障害のある生徒が障害のない生徒と共に教育を受けることで、「共生社会」の実現を目指し、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者が、積極的に参加・貢献していくことを促す。			
第2学年部	学習指導	主体的に学習する習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。	「予習・授業・復習」のサイクルを大切にしながら、特に授業を中心として、基礎学力の定着を図る。 教科担当者との連携を密にし、各学級の学習状況や個々の生徒の様子を共有し、特に学習に不安を持つ生徒に対して、個人面談をするなど、丁寧に指導する。		
		希望進路の実現に向けた取組の充実を図る。	進路に関する情報を提供し、希望進路（目標）をできるだけ早期に決定し、その目標に向けて学習意欲を高め、学力の向上を図る。 進路指導部と連携して、自分の進路について考える機会を設けるとともに、模試などを利用して面談を実施し、その意識を高めさせる。		
	生徒指導	生活規範を尊重する態度を育成する。	集団の中の一人として自覚を持ち、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。 様々な教育活動を通じて、挨拶の励行や相手の立場を考え思いやりのある行動をさせる。		
	保護者との連携	保護者との継続的な連携を図る。	保護者面談等を行い、家庭との連携を密にし、家庭の様子や学校での状況を交流し、生徒の指導に活かす。		
第3学年部	学習指導	希望進路を実現できる学力を身につけさせる	教科担当者との連携を取り、学習習慣の定着を図り、自立した学習者へと導く。 模擬試験等を通して自己の実力を把握させつつ、進路情報を提供し、学習意欲を高め、希望進路の実現を図る。		
		希望進路の実現に向けて、効果的な取組を行う	将来を見据えた進路希望を持たせるとともに、その把握に努め、個に応じた適切な指導を行い、学年全体が一致団結して受験という団体戦に挑ませる。		
	生徒指導	特別活動や部活動等への参加を促し、活動を通して社会性や人間力を向上させる	部活動、生徒会活動、学校行事、特に学校祭の取組において、リーダー性を発揮できるように導く。 将来の面接試験を念頭に置き、期限や時間を守らせるとともに、身だしなみを整えさせ規範意識の高揚を図る。		
保護者連携	進路に対する生徒と保護者双方の考えを把握する	学年団全員が協力して取り組み、情報共有を図る。保護者との連絡を密にすることで、生徒だけではなく、保護者にも信頼される関係を構築する。			

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
事務部	教育環境の整備	生徒及び教職員が安全・安心な学校生活が送れるように教育環境を確保する。	校舎・施設等の適正な維持管理に努める。また、施設設備の危険箇所の早期発見及び早期対応を行う。		
		学校の特色化を進める設備・備品の充実	探究活動や理数教育等の特色のある教育活動を進めるための効果的な予算執行に努める。		
	信頼される学校づくり	学校の窓口としての接遇向上	生徒、保護者、来客者及び地域住民に対する窓口対応、電話対応等明るく丁寧な対応を行う。		
	修・就学支援	生徒の修・就学支援の充実	保護者・生徒に対する十分な案内周知と丁寧な対応を行い、就学支援金や各種奨学金事務を円滑に実施する。		
	会計管理	適切な会計事務の執行	職員相互のチェック体制を強化し、給与、旅費及び会計事務等の適正な処理に努める。		
国語科	学習指導	基礎学力の定着に向けての支援	現代語彙、漢字、古文単語、古典文法、漢文句法などについて、小テストを継続して実施し、学習習慣や基礎学力の定着を図る。		
			学習を苦手とする生徒への支援を、学年団と連携して行う。		
			週末・長期休業中の課題及び課題テストを実施し、さらなる学力伸長を図る。		
	進路希望実現に向けての支援	集団、または個別の作文指導を通して、自らの主張を論理的に構成する力を養う。			
正確な読解力に基づく解答力を育む。また、問題演習を通して、記述問題や客観問題への対応力を向上させる。					
授業改善	ICT機器の活用	ただ導入するだけでなく、教育効果を検証しながらさまざまな方法を試みる			
	新しい評価方法に向けての研究	従来の維持すべき点をふまえて、新しい観点での評価を取り込む方法を探る			
地歴・公民科	学習指導	生徒の進路希望の実現	単元ごとの小テストを定期的実施し、個に応じてきめ細かな学力の定着を図る。		
			各種模試や大学などの過去問題演習を計画的に進め、生徒の希望進路の実現に寄与する		
			進路希望に応じて、生徒の「主体的、対話的な学び」の一層の充実を図る。		
評価の改善	定期考査などの質の向上	評価の信頼性、妥当性を向上させるため、評価の在り方について検討を図る。			
		定期考査の作問の分析を通じて、日々の教科指導の改善につなげる。			
資質の向上	ICT活用をふまえた教科指導力のさらなる向上	公開授業や研究協議、教科研究会、オンライン研修等への積極的な参加を通じて、教科指導力の一層の向上を図る。 生徒の「思考力・判断力・表現力」を育む授業、主体的に学びに向かう姿勢を高めるために、魅力的な授業デザインを構築する。			
数学科	学習指導	基礎学力の定着	主体的・対話的で深い学びを実現するために、アクティブラーニングを推進し、質の高い感動のある授業を展開する。 基礎・基本を徹底することで、教科書の内容をしっかりと理解・定着させる。また、傍用問題集の活用や週末課題等による授業と連携した家庭学習の習慣化に努める。 居眠り・私語の防止、制服を正しく着用させるなど授業規律を確立し、学習効果を向上させる。		
			希望進路実現へ向けた学力の充実	各学科・コースにおける学力実態を考慮し、それぞれに応じた指導事項の精選を行うことで学力の伸長を図る。 大学入学共通テストの分析・研究を進め、基本的な知識・技能を活用し深く考える必要がある課題を与えることで、思考力・判断力・表現力の養成に繋げる。 週末課題や進学課外において、大学入試問題や模擬試験などを活用し、難関大学受験に対応できる学力の充実に努める。	
	指導力向上	○J T推進による教科指導力の向上	公開授業等を活用し分かりやすく関心・意欲が高まる授業や、基礎学力の定着および発展的学力充実のための指導法についての教科内研修を行う。 生徒の深い学びを援助するためのICT活用指導力、自律的な問題解決を促せるようなファシリテーション能力の充実に努める。 各学科・コースの生徒に対する指導法および評価のあり方をより良いものとなるよう研究を推進する。		

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
理科	学習指導	基礎学力の定着	各単元のねらいを明確にし、学科・コースに応じた指導内容を精選する。 ClassiやTeamsなどを利用して、効果的な学習指導を行う。		
		教材研究	観察や実験を通して、自ら学ぶ楽しさや喜びを体験することができる学習活動を考える。		
			個別最適化された学びに必要なICTの活用法を研究し、指導力向上を図る。		
		希望進路実現に向けた学力の充実	授業進度や授業内容に偏りが生じないように、担当者間で連携を密にする。また、問題演習方法を工夫し、考える力の育成・定着を目指す。		
	探究活動の推進	探究的態度の育成	民間・公的機関研究所、および大学との連携を通じて自然科学に対する興味・関心を高める。		
		課題発見力の育成	与えられた問いや答えのある問いに取り組むのではなく、社会や学術の世界における課題を発見し取り組む力を身につけさせる。		
		評価方法の研究	ポートフォリオやルーブリックを参考にした評価方法を研究する。		
OJTの推進	新課程入試の研究	新課程入試の出題傾向やセンター試験廃止後の大学入学共通テストに関する情報収集に努めるとともに、教科会で情報共有し、教科指導力の向上を図る。			
保健体育科	体育	社会的態度・実践力の育成	安全かつ効率性を考慮して計画を進め、新型コロナ対応にも柔軟な対応、迅速な判断をする。 各種運動を合理的に実践させ、基礎体力の向上に努める。球技の選択授業を充実させ、生涯体育につながるようにする。		
		課題解決力の育成	Classiを利用して、深い学びを実現するとともに、振り返りシートとして活用させる。		
	保健	健康で安全な生活を送る資質や能力の育成	自ら課題を見つけ解決に向けての方策を見出すことのできる力をつけさせる。 現代社会において問題となっている事柄について精査し、将来の生活につなげる力を養う。		
		情報の収集と表現する力の育成	課題学習を通して、課題解決のために情報を収集し、発表できる力を身につけさせる。		
	部活動・体育的行事	部活動の活性化	部活動への積極的な参加を通して、活動の充実感や達成感を味わわせるとともに、学年の枠を越えた良好な人間関係の確立を図る。		
		体育的行事の活性化	体育祭や球技大会において、生徒の自主性を育てるとともに、集団のまとまりや絆を感じられるように全教職員で指導する。また、安全を第一に考えて行事を展開する。		
芸術科	学習指導	主体的、対話的に取り組む姿勢の育成	各題材における指導内容を明確化し、指導事項を活用させながら表現・創作活動に取り組ませる。自立的な課題設定を促す。 校外の文化的発表の場を積極的に利用して、芸術選択生徒の主体的な制作・表現活動につなげる。		
		芸術における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力の育成	幅広い活動（音・美・書）を通して、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わわせるために、学習内容を明確にした鑑賞活動を充実させる。		
			幅広い活動（音・美・書）を通して、各科目の特質について理解させ、学習した技能を定着させるために、学習内容を活用しながら思いや意図をもって創作させる機会を増やす。 幅広い活動（音・美・書）を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い豊かな情操を培うために、日本及び諸外国の芸術文化の題材をバランス良く取り上げる。		
	指導力の向上	ICTを活用しながら、より効果的な題材への導入や表現・鑑賞能力を伸ばす方法を研究する。 音楽・美術・書道の連携を深め、それぞれの教科における評価方法を共有し、観点別評価に対応できる評価基準を作成する。			

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
英語科	授業	基礎・基本の定着	1年生において、少人数講座や習熟度講座編成を行い、わかる授業・効果的な活動を展開し、生徒の学力向上に努める。		
			自立した学習者へと導くために、低学年での丁寧な指導に努める。1年生においては、中学から高校への接続をスムーズに行い、基本事項の定着と家庭学習習慣の確立を図る。2年生においては、小テスト、週末課題を自らの学習サイクルに組み込み、計画的に自学できる学習者へと導く。		
	小テストや定期テストにおける成績不振者に対しては、学級担任とも連携を取りながら、学習に対する意欲の喚起に努める。				
	コミュニケーション能力の養成	個人・ペア・グループ・斉指導といった学習形態を効果的に用いて、アクティブラーニングを推進し、英語を発信する意欲や態度を育む。			
		1年生および2年生において、チームティーチングを実施し、4技能の伸長を重点に置いた指導に努める。GTECスピーキングや、難化傾向にある英検2次試験の対策についての研究を進め、指導法を英語科で共有する。			
教材研究	指導・評価方法の改善	次年度に実施される観点別評価に向けて、西高ルーブリックにおける評価基準や評価項目の研究を推進し、評価と指導の一体化を図る。			
	ローカルサイエンスイングリッシュの研究	主体的・対話的で深い学びの推進に向けて、思考力・判断力を高める3年間を見通した指導法の研究を推進する。特に、1年生充実コースおよび2・3年生文系コースの生徒について、自己肯定感を高めて学習に意欲的に取り組めるよう、目指すべき生徒像を教員間で検討・共有して指導にあたる。ICT機器を授業内で効果的に活用し、生徒にとってより分かりやすい授業を展開する。			
家庭科	学習指導	基礎・基本の定着	実践的・体験的な学習活動を通して、知識や技術の定着を行う。		
		コミュニケーション能力の養成	家庭や地域での実践活動や年間を通じた継続的な活動実践を行う。		
	授業改善	指導力向上	ICTを活用し、分かりやすく関心・意欲が高まる授業への工夫のため教材研究を行う。		
情報科	学習指導	情報モラルの向上と情報の適切な処理・活用能力の育成。	コンピュータ室の使用上の注意から徹底し、公共の場であることを意識させ、情報のモラルを実践させる。また、実習等をとおして情報処理能力や活用能力を育てる。		
	指導力の向上	生徒の自主的、積極的な情報活用能力の育成。	基本的な情報技術を習得させ、情報の意義や役割を正しく理解させ、自ら活用する能力を育成し、分析能力まで発展させる。 ワープロ検定や情報処理検定の資格取得をサポートし、生徒に自信と進路希望を実現させる。		
総合的な探究の時間	主体性を育む指導を行う	主体的に自己と向き合う取組	探究活動を通じて、自分の興味・関心を抱いていることや得意とすることを見出し、考察を深める。		
		主体的に社会と向き合う取組	地域の様々な機関と連携を図りながら、SDGsについて学習して地域や世界に目を向け、自分が社会に対してどのように貢献できるか考察する。		
		主体的に伝え合う取組	仲間と協働して調査・研究を進めることにより、コミュニケーション力を身に付けるとともに価値観や思考力を豊かにする。		
学校関係者評価委員会による評価					
次年度に向けた改善の方向性					

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果が得られた） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた） C：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない） D：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）